

地域家庭医療学

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	2 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	3 人	

2 教員の異動状況

沖 隆（特任教授）(H12.4.1～H25.12.31 第 2 内科講師；H26.1.1～現職)

井上 真智子（特任教授）(採用 H26.4.1～現職)

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	11 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	11.81	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	1 編	
そのインパクトファクターの合計	45.22	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	7 編	(7 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	13 編	(13 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.90	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Sakai N*, Yamashita S, Takehara Y, Sakahara H, Baba S, Okai Y, Takahashi G, Koizumi S, Sameshima T, Namba H Evaluation of the antiangiogenic effects of octreotide on growth hormone-producing pituitary adenoma using arterial spin-labeling perfusion imaging. *Magnetic resonance in medical sciences : MRMS : an official journal of Japan Society of Magnetic Resonance in Medicine* 14:73-76, 2015 [1.481]
2. Matsunaga H, Sasaki S*, Suzuki S, Matsushita A, Nakamura H, Nakamura HM, Hirahara N, Kuroda G, Iwaki H, Ohba K, Morita H, Okai Y, Suda T Essential Role of GATA2 in the Negative Regulation of Type 2 Deiodinase Gene by Liganded Thyroid Hormone Receptor beta2 in Thyrotroph. *PloS one* 10:e0142400, 2015 [3.234]

インパクトファクターの小計 [4.715]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kageyama K*, Sugiyama A, Murasawa S, Asari Y, Niioka K, Okai Y, Daimon M Aphidicolin inhibits cell proliferation via the p53-GADD45beta pathway in AtT-20 cells. *Endocrine journal* 62:645-654, 2015 [2.000]
2. Shumer G, Warber SL, Melissa P, Amenomori M, Inoue M, Fetters MD: Acupuncture Use in Rural Japanese Family Medicine Populations: A Cross-sectional Survey Study. *Medical Acupuncture*, 28, 49-55, 2016. [なし]
3. Aoki T, Inoue M, Nakayama T: Development and validation of the Japanese version of Primary Care Assessment Tool. *Family practice*, 33, 112-117, 2016. [1.861]
4. Shultz CG, Chu MS, Yajima A, Skye EP, Sano K, Inoue M, Tsuda T, Fetters MD: The cultural context of teaching and learning sexual health care examinations in Japan: a mixed methods case study assessing the use of standardized patient instructors among Japanese family physician trainees of the Shizuoka Family Medicine Program. *Asia Pacific Family Medicine*, 14, 8, 2015. [なし]
5. Matsumoto S, Yamaoka K, Inoue M, Inoue M, Muto S, Teikyo Ishinomaki Research Group: Implications for Social Support on Prolonged Sleep Difficulties among a Disaster-Affected Population: Second Report from a Cross-Sectional Survey in Ishinomaki, Japan. *PloS One*, 10(6) e0130615, 2015. [3.234]
6. Tsunawaki S, Inoue M, Fetters MD: An empirical assessment of cases experienced during inpatient family medicine resident training in a rural community hospital of the Shizuoka Family Medicine Training Program in Japan. *Journal of General and Family Medicine*, 16, 177-186, 2015. [なし]

7. フィリップ ザゾフ, 井上真智子, 本原理子, マイク D. フェターズ: 大学における家庭医療学講座設置の意義. 日本プライマリ・ケア連合学会誌, 38, 358-368, 2015. [なし]
8. 高橋由光, 瓜生原葉子, 井上真智子, 岡本茂, 柏原英則, 鬼頭久美子, 篠原圭子, 萬代真理恵, 森岡美帆, 田中司朗, 川上浩司, 中山健夫: 医療等分野における番号制度導入への医師を対象にした意識調査. 日本公衆衛生雑誌, 62, 325-337, 2015. [なし]
9. 大野直子, 菱木清, 関玲子, 楯直子, 上野公子, 林弘美, 井上真智子, 榊原圭子, 大胡恵樹, 榎村浩一: 帝京大学医療系全学部の初年次におけるコミュニケーション教育. 日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌, 6, 68-78, 2015. [なし]

インパクトファクターの小計 [7.095]

(2-2) レター

1. Miyata H, Ezoe S, Hori M, Inoue M, Oguro K, Okamoto T, Onishi K, Onozaki K, Sakakibara T, Takeuchi K, Tokuda Y, Yamamoto Y, Yamazaki M, Shibuya K, Health Care 2035 Advisory Panel: Japan's vision for health care in 2035. Lancet, 385, 2549-2550, 2015. [45.217]

インパクトファクターの小計 [45.217]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 沖 隆 下垂体疾患 内分泌 Work-up の ABC. Pharma Medica 33:78-79, 2015
2. 沖 隆 【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】(第 10 章)代謝・内分泌 下垂体後葉機能異常(CDI・SIADH). 内科 115:1344-1346, 2015
3. 沖 隆 【副腎の病理】 副腎病変を病理診断するに際し必要な最低限の内分泌学/画像的所見. 病理と臨床 33:1296-1303, 2015
4. 沖 隆 【高齢者の内分泌疾患を診療する際に気をつけること】 サブクリニカルクッシング症候群. 内分泌・糖尿病・代謝内科 41:286-289, 2015
5. 沖 隆 【ホルモン測定系の問題と疾患】 イムノアッセイ. ホルモンと臨床 61:439-441, 2013 (2015 年発行)
6. 井上 真智子: 大学教授 (特集 ライフキャリア・サバイバル : 女性医師が生きやすい社会を目指して) -- (働き方の多様な先輩女性医師からの経験を踏まえたメッセージ(ロールモデル)). 治療, 97, 1756-1758, 2015.

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 柴田綾子、井上真智子：妊婦・褥婦のエマージェンシー 産後出血. 総合診療 26, 30-34, 2016.

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 沖 隆、下垂体機能低下症、金澤一郎・永井良三、今日の診断指針、医学書院、東京、p1194-1197、2015 【内科】
2. 沖 隆、ACTH の基礎知識、平田結喜緒・成瀬光栄、クッシング症候群診療マニュアル、診断と治療社、東京、p9-13、2015 【内分泌】
3. 沖 隆、ACTH の測定法、平田結喜緒・成瀬光栄、クッシング症候群診療マニュアル、診断と治療社、東京、p14-15、2015 【内分泌】
4. 沖 隆、クッシング病 a)病態生理・診断、平田結喜緒・成瀬光栄、クッシング症候群診療マニュアル、診断と治療社、東京、p89-93、2015 【内分泌】
5. 沖 隆、クッシング病 b 治療：(6) 内科的治療、平田結喜緒・成瀬光栄、クッシング症候群診療マニュアル、診断と治療社、東京、p111-113、2015 【内分泌】
6. 沖 隆、コラム David N. Orth、平田結喜緒・成瀬光栄、クッシング症候群診療マニュアル、診断と治療社、東京、p201-201、2015 【内分泌】
7. 沖 隆、パシレオチドによるクッシング病治療、平田結喜緒・成瀬光栄、クッシング症候群診療マニュアル、診断と治療社、東京、p248-249、2015 【内分泌】
8. 沖 隆、クッシング病、成瀬光栄・平田結喜緒・田辺晶代、難治生内分泌代謝疾患、診断と治療社、東京、p17-19、2015 【内分泌】
9. 沖 隆、体重増加、満月様顔貌、多毛などを認めた 38 歳の女性、肥塚直美、専門医を目指すケースメソッドアプローチ、日本医事新報社、東京、p159-168、2015 【内分泌】
10. 井上真智子 新・総合診療医学—Case & Review、カイ書林 2015. (共同編集、分担執筆)
11. 井上真智子 FDA リスク&ベネフィット コミュニケーション: エビデンスに基づく健康・医療に関する指針、丸善出版 2015. (分担翻訳：担当第 20 章)

12. 井上真智子 総合診療専門医のカルテプロブレムリストに基づく診療の実際 (総合診療専門医シリーズ) 中山書店、2015. (担当:分担執筆)

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 松田真和、井上真智子. 骨粗鬆症. コモンディジーズ診療指針、スーパー総合医シリーズ。中山書店、2016 (分担執筆)

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Ohara N, Kojima N, Sato T, Ikarashi T, Sone H, Oki Y, Kamoi K, Hara M, Sasaki H Type 1 diabetes mellitus and isolated adrenocorticotropin deficiency manifested by parkinsonism: a case report and literature review. Intern Med 54:2629-2635, 2015 [0.904]

インパクトファクターの小計 [0.904]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 27 年度
(1) 科学研究費助成事業 (文部科学省、日本学術振興会)	1 件 (182 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1 件 (15 万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	1 件 (28 万円)
(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成	1 件 (413 万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(6) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(7) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(8) 奨学寄附金	5 件 (225 万円)

(1) 科学研究費助成事業 (文部科学省、日本学術振興会)

井上 真智子. 基盤研究(C)診療所組織を対象としたプライマリ・ケア質向上プログラムの開発. H27-29 年総額484万円, H27年度 182万円

(2) 厚生労働科学研究費

沖 隆 課題「間脳下垂体機能障害に関する調査研究」

研究期間：2015 年度

役割：分担研究者

分担総額：15 万円

代表研究者：島津章（京都医療センター）

(3) 日本医療研究開発機構（AMED）による研究助成

沖 隆 間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究

研究期間：2015 年度

役割：分担研究者

分担総額：28 万円

代表研究者：島津章（京都医療センター）

(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成

井上真智子 「未病に取り組む多世代共創コミュニティの形成と有効性検証」独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）、H26-29 年、研究分担者、分担総額 1200 万円 H27 年度 413 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	2 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	1 件	3 件
(4) 学会開催回数	1 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	11 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

井上真智子 実行委員会事務局長 国際混合研究法学会アジア地域会議 / 第1回日本混合研究法学会（大阪、日本） 2015 年 9 月 300 名

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

4) 国際学会・会議等での座長

井上真智子 国際混合研究法学会アジア地域会議 / 第1回日本混合研究法学会、大阪、2015 年 9 月

5) 一般発表

ポスター発表

Yutaka Oki, Miho Yamashita, Kazumi Iino, Shigekazu Sasaki, The Evaluation of ACTH Secretion with Growth Hormone Releasing Peptide-2、米国内分泌学会 (シカゴ) 2015

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 沖 隆:教育講演 Cushing 病診療におけるピットフォール、第 88 回日本内分泌学会学術総会(東京)、2015
2. 沖 隆: Cushing 病 Update, 臨床内分泌代謝 Update (東京)2015

3) シンポジウム発表

4) 座長をした学会名

1. 沖 隆 第 88 回日本内分泌学会学術総会 (東京)
2. 沖 隆 第 26 回日本間の下垂体腫瘍学会 (福島)
3. 井上真智子 第 6 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

沖 隆

日本内科学会	評議員
日本内分泌学会	東海支部長
	代議員 (旧評議員)
	Endocrine Journal 編集委員
	専門医試験内科小委員
	内分泌学会重要課題委員
	原発性アルドステロン症
	副腎クリーゼ
	サブクリニカルクッシング症候群
日本神経内分泌学会	評議員、理事
日本ステロイドホルモン学会	評議員
日本糖尿病学会	評議員、専門医
日本間脳下垂体腫瘍学会	理事 (渉外担当)

井上真智子

日本混合研究法学会	理事・事務局
日本プライマリ・ケア連合学会	女性の医療・保健委員会委員長
日本プライマリ・ケア連合学会	医療の質・安全委員会委員
日本医学教育学会	研究倫理・COI 委員会委員
日本プライマリ・ケア連合学会	学会誌編集委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

1. 沖 隆 Endocrine Journal Editorial Board (2.000)
2. 井上真智子 General Medicine (Journal of General and Family Medicine) (日本)
編集委員 PubMed/Medline 登録無、インパクトファクター無

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 沖 隆 Endocrine Journal 3回
井上真智子 5回 General Medicine (Journal of General and Family Medicine) (日本)
井上真智子 1回 PloS One (オンラインジャーナル)

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	3件
(2) 国内共同研究	5件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

1. 井上真智子 家庭医療レジデントの自己評価に関する研究、ミシガン大学家庭医療学講座(米国)、H26-27年、データ分析・検討、論文投稿中
2. 井上真智子 日本の鍼灸治療の実践に関する研究、ミシガン大学家庭医療学講座(米国)、H27年、データ分析・検討、論文出版済み
Shumer G, Warber SL, Melissa P, Amenomori M, Inoue M, Fetters MD: Acupuncture Use in Rural Japanese Family Medicine Populations: A Cross-sectional Survey Study. Medical Acupuncture, 28, 49-55, 2016.
3. 井上真智子 混合研究法に関する研究、ミシガン大学家庭医療学講座(米国)、H26-27年、ワークショップ開催資料の交換、論文投稿中

(2) 国内共同研究

1. 井上真智子 低所得者医療に関する診療所医師の認識について 日本医科大学衛生学公衆衛生学講座 H25-27年 医療経済研究機構研究助成
2. 井上真智子 へき地・離島における女性診療・妊婦分娩管理の困難と障害に関する質的研究～産婦人科医とプライマリ・ケア医のより良い協力体制のために～ 淀川キリスト教病院 H27年 聖路加ライフサイエンス研究所
3. 井上真智子 日本におけるプライマリ・ケア質評価指標の開発 京都大学 H24-27年 文部科学省科学研究費
4. 井上真智子 中学生女子へのHPVワクチン教育に関して 静岡家庭医養成プログラム H25-27年 ミシガン大学奨学寄附金

5. 井上真智子 未病に取り組む多世代共創コミュニティのデザイン 慶應義塾大学、他、H26-29年、
独立行政法人科学技術振興機構

(3) 学内共同研究

1. 井上真智子 Lynch 症候群から始める「地域発、プライマリ・ケア遺伝診療」の確立
研究代表者（岩泉守哉） 研究分担者（鳴本敬一郎、他）

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

井上真智子

1. 厚生労働省「保健医療 2035」策定懇談会構成員
2. 厚生労働省「保健医療 2035」推進本部参与

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道